

読書と読解の相違点

読 書 指 導	読 解 指 導
① 文章表現の全体を志向し全一的巨視的な読みとり。	① 文章表現の部分的な面が重視される。分析的、微視的にかたむく。
② 読み手の精神が直接に文章表現の全体的な意味生命にふれる。	② 文章表現を忠実にたどって、そこから精密に全体の意味を構成していく。
③ 書かれている内容と読み手の精神とのかわりあい問題になる。	③ 一読ただちに関心の方向が表現叙述の面に向かう。
④ 主題・中心思想・作者の意図などが関心の対象になる。	④ 文章・語句のほか、要点・段落・順序、中心語句などに関心が集まる。
⑤ 直接書かれている知識心情が身につく。(生活読み)	⑤ どうして読みとるかという読みする方法が身につく。(学習読み)
⑥ 読み手の生活や人間性と一体となった読みである。(主体的な読みとり)	⑥ 資料を客観的に自己の外におき、これを分析研究して理解する。(客体的な読みとり)

ア、読み手の興味に基づいて、文章内容をつかみ、おもしろさの中味を考える活動
 イ、読み手の想像力に基づいて、文章内容をつかみ、その意味を考える活動
 ウ、読み手のもつ問題意識や課題によって文章内容をつかみ、その意

イ、読解指導と関連づけた読書指導(読解指導の発展として、学習した技能の応用、読書範囲の拡大な

② 作品を読み、心に残ったことをメモする。
 ○ 強く心に残ったところ

⑦ 学習のまとめをする。
 ⑧ 他の作品を読む。

(二) 読書指導の方法と機会

味を考える活動
 エ、読み手の欲求・意欲によって読み手としての感想・意見を形成する活動
 オ、読み手が、読みながら文章内容に触発され、創造的世界を形成していく活動
 カ、作者の立場と表現や内容との関係を読みながら、読み手の考え方と比べる活動
 キ、読後の話し合い活動を通して、読むことの深化・拡充を図る活動

(三) 読書教材における指導過程

まえに述べたように、読書指導のねらいや活動を考えた場合、どんな指導過程と活動を構成すればよいだろうか。次に一般的な展開を考えてみよう。

③ 感想を話し合う。
 ○ メモをもとに、発表しあい、自分の考えを深める
 ○ 友だちの発表で参考になる意見メモしておく
 ○ 必ず確認しておくべき事गरらメモしておく
 ○ 主人公はだれか
 ○ 主人公が置かれている位置読み深め、読み味わう。
 ④ 読みひたる
 ○ わからなかったら前へもどり辞書や事典なども利用する
 ○ 読んで感想を書く。
 ○ 初発の感想とのちがいがあつたら、そのことはよりくわしく書くようにする
 ○ 朗読をする(朗読を聞く)
 ○ 感想を発表し合う。
 ○ 友だちの発表を聞き、自分の感想とのちがいを知る
 ○ なぜそのちがいが出てきたかを考える
 ○ 話し合う
 ○ 同じ作家や同じ傾向の本などの紹介をする。